

Web での問題提起手法の提案

安田伸一¹

yasudas@cc.saga-u.ac.jp

あらまし 佐賀大学経済学部 地域経済研究センターでは、調査研究報告書を公開する際に自動更新される一次資料を同時に掲載した。本論文では、報告書といった編集された情報と、その根拠となる事実を同時に提示する情報共有型の問題提起手法について考察する。一次資料の提供は、読み手に情報の読みこなしを要求し、専門家以外の読み手に対して一時資料を利用するための補助が必要となる。

キーワード オンライン・ドキュメント、情報の自動更新、一次情報・二次情報

A System to Raise a Question on the Web

Shinichi YASUDA

yasudas@cc.saga-u.ac.jp

Abstract Center for Regional Economics Studies at Saga University provides online papers with up-to-date original sources on the Web. This paper considers a system to raise a question sharing the question and original sources. To show original sources make visitors understand the original sources, and the information system must assist visitors to understand the original sources.

Keywords online documents, automatic information updating, original information/edited information

1. はじめに

本論文では、編集された情報と、その根拠となる事実を同時に提示する、情報共有型の問題提起手法について考察する。

佐賀大学経済学部 地域経済研究センターでは、地域経済研究の成果を年一回発行の年報と不定期に発行する調査研究報告書によって公表している。このうち調査研究報告書では、資源リサイクルやまちづくり、高齢社会など、地域社会の課題を取り上げてきた。

これらの地域社会の課題は現代社会の問題で

あるから、その課題に対する社会の対応は調査研究報告書の作成のあとも変化する。周知の問題への対策が試みられ、新しい問題も提起される。そこで、調査研究報告書による特定の時点での調査結果や研究報告だけでなく、地域社会の最新の取り組みを把握でき、変化する現代社会の課題の全体像と現状とを同時に情報提供することを目指して、2002年4月から「資料室」という名称のホームページ(以下、オンライン資料室。<http://creslib.eco.saga-u.ac.jp/>)を開設した[安田 2003]。

¹ 佐賀大学 経済学部、佐賀市本庄町大字本庄 1 〒840-8502
Faculty of Economics, Saga University, Honjo 1, Saga city, Saga 840-8502 JAPAN

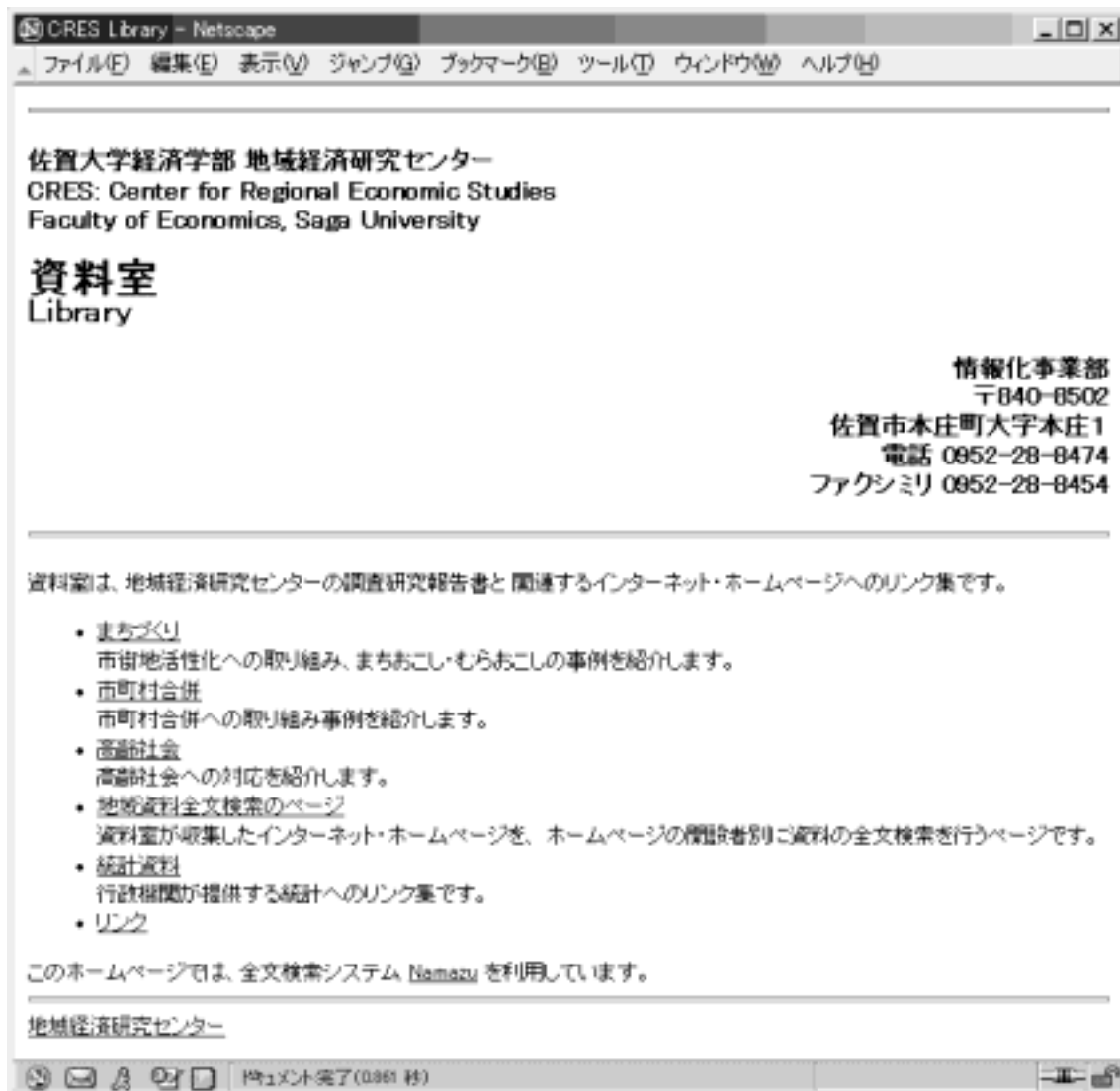


図 1 オンライン資料室

地域社会の抱える課題の現状を情報として提供するために、地域社会のさまざまな構成員が提供するインターネット上の情報を利用する。インターネット上の情報へは、二種類の方法で関連づける。一つ目の方法は、調査研究報告書の内容と関連の深い研究機関や自治体、NPO などのホームページへの静的なリンクである。この関連づけによって、同じ問題に関わる重要な地域社会の構成員とその活動を追跡できる。

もう一つの方法は、あらかじめ選定したホームページ群を特定のキーワードで全文検索し、同じ問題に関連するすべてのホームページを動的に

表示する方法である。こちらの関連づけは、統計データや会議録などの比較的個別の情報を表示し、同じ問題の現状を追跡できる。

本論文では、第 2 章でオンライン資料室の提供する情報、第 3 章でシステム構成、第 4 章で評価と今後の課題について説明し、第 5 章でまとめる。

2. オンライン資料室の提供する情報

オンライン資料室は、調査研究報告書と同じ課題に関する現在の状況を表すホームページへのリンクを提供する。2003 年 6 月の時点で、まちづくり、市町村合併、高齢社会の三つの課題を扱う(図 1)。また、オンライン資料室の利用者の独自

“まちづくり”のページ

佐賀大学経済学部地域経済研究センター

研究会「市民参加のまちづくり 佐賀市の中心市街地の再生方策を探る」

調査研究報告書「市民参加型のまちづくりとは何か 佐賀市の取り組み事例発掘から考える」(2000年3月)

調査研究報告書「市民参加型のまちづくりとは何か 佐賀市の市民ワークショップの事例から考える」(2001年3月)

唐人町商店街振興組合

佐賀市の通称「シンボルロード」を花で飾る「花物語」や、熱気球大会時期の「ライトファンタジー」などを実施

NPO法(特定非営利活動促進法)ガイド

佐賀県環境生活局県民生活課によるNPO法施行事務の紹介

八女市中心商店街 元気再生プロジェクト

藤原恵洋氏(九州芸術工科大学助教授)による取り組み

大垣市 大垣商店街空き店舗対策事業

マイスター倶楽部(商店街での岐阜経済大学学生の実証研究)、まちの駅、スインクショップ、などの活動

資料室 全文検索

図 2 調査研究報告書と注目するホームページへのリンク集

キーワード「まちづくり」で佐賀県自治体を検索

検索結果

参考ヒット数: [まちづくり: 212]

検索式にマッチする 212 個の文書が見つかりました。

1. (株)まちづくり佐賀の破産 (スコア: 42)

日付: Sat, 01 Feb 2003 01:27:47

佐賀市トップへもどる ■検索 ■市からのお知らせ・行政情報 ●監査 ●建設中の施設 ●広域行政 ●国際交流 ●国民健康保険 ●国民年金 ●市営住宅 ●市の取り組み ●市長記者会見 ●市報さが ●主要事業 ●情報

<http://www.city.saga.saga.jp/doc/62e55d49b6b4e5a149256aa00021bc2a.html> (14,313 bytes)

2. ふるさとまちづくりセミナーの開催について (スコア: 37)

日付: Sun, 02 Feb 2003 01:08:11

ふるさとまちづくりセミナー 参加申込書 LastModified: 2002/03/26 地域を知り、地域に愛着を抱き、自らがまちづくりに参加しましょう! 心(思い)をこめてまちを創っていきましょう。一人一人の熱い思いを語り、今後のまち

<http://www.town.chinzei.saga.jp/kyouiku/mati.html> (5,295 bytes)

3. まちづくりボランティア養成講座 (スコア: 28)

日付: Thu, 12 Sep 2002 13:07:53

まちづくりボランティア養成講座 ～ ボランティア活動は、魅力あるまちづくりの推進力! ～ 「自分の時間や労力、専門的知識、技能を何らかのボランティア活動に生かしたい!」…「ボランティア活動のことを知りたい」

<http://www.saganet.ne.jp/taku/news/new3501.htm> (2,826 bytes)

4. まちづくりワークショップに参加しませんか! (スコア: 26)

日付: Thu, 12 Sep 2002 13:37:58

佐賀市トップへもどる ■検索 ■市からのお知らせ・行政情報 ●広域行政 ●国際交流 ●国民健康保険 ●国民

図 3 あらかじめ選定したホームページ群の全文検索結果

の情報検索要求に応じるために、地域資料の全文検索機能と自治体の提供する統計資料へのリンク、地域資料を提供するホームページへのリン

クを用意した。

2.1 調査研究報告書

オンライン資料室では調査研究報告書の全文

をPDFで閲覧できる。それぞれの報告書は、地域社会の課題について、ある特定の時点でのまとまった情報である。

さらに、報告書の執筆者は、地域社会の課題へ主体的に取り組む組織や人物を把握している。また、その課題に対する地域社会の対応状況を示す情報源を知っている。そこでオンライン資料室では、調査研究報告書の執筆者を地域の課題の全体を見渡せる専門家と考え、地域の課題に取り組んで活動している組織や人物の指定を依頼し、この情報が地域の課題の現状を表していると考ええる。

2.2 研究者が選定したホームページ

オンライン資料室では、地域の課題の現状を示すためにインターネット上の情報源を二通りの方法で提供する。一つ目の方法は、調査研究報告書の執筆者が選定する少数のホームページへのリンクの提供である(図 2)。

インターネットのディレクトリ・サービスには、地域の課題に関するカテゴリが用意されている。例えば、Yahoo! Japan には「日本の地方 > 九州 > 佐賀県 > 生活と文化 > まちづくり」というカテゴリがある。しかし、商用のディレクトリ・サービスを地域の課題への取り組みの現状を示す情報源として利用するには、二つの問題点がある。

一つ目は、問題意識の有無である。商用のディレクトリ・サービスは汎用であるために、地域の課題への取り組みに対する問題意識がなく、地域経済研究センターの調査研究報告書の内容との連続性が取れない。二つ目は、カテゴリ設定の相違です。地域の課題は、特定地域の固有の問題ではない。地域の課題は、同一の問題意識をもつ他の地域とも情報交換しながら、取り組む課題である。汎用のディレクトリ・サービスは地域の課題を地域別のカテゴリで分類するので、注目すべき他の地域の情報が欠落する。

オンライン資料室では、調査研究報告書の執

筆者が選定する少数の組織や人物を参照することにより、調査研究報告書の問題意識を共有し、かつ注目すべき取り組みを地域に関わりなく指摘できる。例えば図 2 に示した「まちづくり」のページでは、佐賀市での事例の他に、注目すべき活動として九州芸術工科大学 藤原助教授の福岡県八女市での取り組みや岐阜経済大学 鈴木教授の大垣市での取り組みを紹介している。また事例以外に、具体的な活動に役に立つ参考情報としてNPO 法ガイドを掲載した。

このような研究者によるホームページの選定により、調査研究報告書の作成時点以降の地域の課題への取り組みを追跡することができる。

2.3 全文検索によるリンク

地域の課題の現状を示すための二つ目の方法は、あらかじめ選定したホームページ群を特定のキーワードで全文検索した結果による情報提供である(図 3)。

前節で示したリンクは、組織や人物へのリンクなので、地域の課題への取り組みそのものを示す Web ページを示しているわけではない。また、調査研究報告書と同様に、過去のある時点での情報である場合もある。

地域の課題への取り組みそのものを示すリンクとして、全文検索結果を提供する。例えば図 3 に示した「まちづくり」のページでは、佐賀県内の全市町村のホームページを全文検索し、「まちづくり」のキーワードを持つ Web ページを表示する。

3. システム構成

3.1 システム構成

事前に指定したホームページの内容を定期的にローカルにコピーし、同時に全文検索用のインデックスを作成する。ホームページの一括取得には wget を用い、cron で定期的に行っている。

情報提供のページは、リンクの URL に事前に指定したキーワードによる全文検索の指示が埋め込まれており、ページの表示のたびに検索結果と

してページを表示する。

全文検索には、高林哲氏を中心とするプロジェクトによって開発された全文検索システム Namazu を利用している。地域の課題の Web ページは、図 2 の通常のリンクと図 3 の全文検索の結果を一つのページに表示する。これは、Namazu が検索結果のページを生成するために用いるテンプレートに通常のリンクを記入することによって実現する。Namazu の検索エンジンは、検索結果のページを生成するために、NMZ.*.ja の六つのテンプレート・ファイルを用いる。このうち、NMZ.head.ja が検索結果の上部に表示される部分を決定するので、このファイルに図 2 のリンクを静的に記述する。

地域の課題のページで最新の全文検索結果を表示させるために、ページを呼び出すリンクが全文検索を実行するように構成される。

地域の課題のページを呼び出すリンクは、オンライン資料室のトップ・ページである。トップ・ページの地域の課題のページを指すリンクは、それぞれ全文検索のキーワードと検索対象を含む URL が記述される。例えば、「まちづくり」のページへのリンクは、次のように記述される。

```
<a href="http://creslib.eco.saga-u.ac.jp/cgi-bin/vitalization/search.cgi?query=%A4%DE%A4%C1%A4%C5%A4%AF%A4%EA&idxname=%BA%B4%B2%EC%B8%A9%BC%AB%BC%A3%C2%CE">まちづくり</a>
```

search.cgi は、Namazu 検索エンジンへのシンボリック・リンクの名前である。query の引数は「まちづくり」、idxname の引数は「佐賀県自治体」である。地域の課題のページを示すリンクの URL で query と idxname を指定して、Web ページを呼び出すたびに全文検索を行う。これにより、地域の課題のページには、常に最新の全文検索結果が表示される。

3.2 データの規模

2003 年 6 月現在、オンライン資料室では、5 研究機関、ホームページを持つ佐賀県内 44 市町村、

九州・沖縄 8 県庁、13 政令指定都市、3 NPO のホームページを収集し、全文検索用の索引を作成する。参考値としてのデータの大きさは、HTML ファイルと PDF ファイルを収集するホームページ領域が約 19.0 G バイト、全文検索用の索引領域が約 3.2 G バイトである。

4. 評価と今後の課題

残念ながら、オンライン資料室を評価する資料は集められなかった。

オンライン資料室を評価する機会として、調査研究報告書をテキストとする公開講座や見学会などでの事前学習、あるいは興味を持った人の事後学習などを想定していた。そして、調査研究報告書の説明への納得に加えて、根拠となる事実の共有による効果の測定を予定していた。しかし、現在まで評価を実施する機会がなかった。

調査研究報告書のような編集された知識を提供することは、特定の意味づけや価値観による取捨選択された事実と、それに基づく論述を提供することである。これに対して、オンライン資料室のように一次資料を読み手に提供すると、読み手は自分自身の価値観による事実の取捨選択を行う必要があり、場合によっては自分自身で意味づけを行う必要がある。

このように、一次資料による情報の提供は、読み手に対して情報が提供される主題への能動的な関わりを要求する。今回のオンライン資料室による情報の提供では、読み手の能動的な関わりを促す仕組みに欠けていた。このため、たとえ問題意識を持って参照した読み手がいたとしても、ここで提供される一次資料に基づいて何らかの結論を得られる読み手は少なかったと考えられる。

ここで、問題提起のための情報提供に対する読み手の能動的な関わりを分析を試みる。読み手を分類する基準として、問題意識の有無と問題に対する分析手法の有無を利用する。ただし、問題意識がない場合には、分析する動機がないの

で、全部で三通りの場合を検討する。

1. 問題意識があり、分析手法を持つ場合

このような読み手の場合には読み手自身で情報収集ができるので、問題意識の共有のための一次情報の共有は必要ない。

しかし、調査研究報告書のような編集された情報には、分析手法を持つ読み手が確認したい事実が省略されている場合がある。このような場合には、読み手自身が根拠事実を確認できるようにするために、関連する一次情報すべてを提供する。

読み手が自分自身で根拠事実を確認するために一次情報を利用することを、「目標型の実事確認」と呼ぶ。

2. 問題意識があり、分析手法を持たない場合

問題意識は共有できるが分析手法がない場合には、読み手が提示された一次情報を利用するには利用方法の案内が必要となる。

この場合の読み手は、例えば、提示された一次情報から問題にかかわる根拠事実を選択し、それらに意味づけを行う作業をガイドの手助けを受けながら実行する。

読み手が何らかの援助を受けながら一次情報を利用して問題を分析することを、「知的活動の追体験」と呼ぶ。この場合、情報に一方的な提供だけでは不十分で、情報の使い方や分析結果の評価など、読み手の活動に対する個別的な対応が必要となる。

3. 問題意識がない場合

問題意識がない場合、情報提供のテーマに対する読み手の関心は、興味や好奇心と呼べるようなあいまいなものである。情報を提供する側には、読み手がどこに興味を示すか、どこに好奇心を持つかが分からない。そこで、編集された情報も、テーマにかかわる整理されていない事実も同時に提示し、読み手の好奇心に答えるようにする。

読み手に明確な問題意識がなく、興味本位に、

あるいは好奇心で情報を参照することを、「無目標型の実事確認」と呼ぶ。この場合、さまざまな興味に対応できるためには、多様な一次情報を用意する必要がある。また、読み手が問題意識を持ったときに次にすべき行動を示す仕組みも必要である。

「目標型の実事確認」を行う読み手は対象となる問題の専門家といってもよいので、多様な一次情報の提供ができればよい。もしかすると、情報の提供すら必要ないのかもしれない。

一方、「知的活動の追体験」を行う読み手や「無目標型の実事確認」のあとで問題意識をもった読み手に対して一次情報を提供することは、単純に情報を提供するだけではなく、読み手がその情報を使って行う知的な活動を補助すべきである。例えば、注目するだけの価値のある情報を指摘する、情報の意味づけを行う、などの補助が考えられる。

5. むすび

オンライン資料室は、システム自体の仕組みが単純なので、定期的な自動更新による最新の一次資料の提供には成功した。しかし、オンライン資料室の具体的な用途や効果が得られなかったという点で、失敗といえるかもしれない。

これは、問題提起を行う際に、根拠となる情報を共有することによって、より説得力のある情報提供を行うことを目標としたが、根拠となる一次情報の利用方法が限られた読み手にしか自明ではないことが原因である。

今後、ありのままの事実を読み手に活用してもらうときに必要な知的活動の補助について、考察をすすめる。

参考文献

[安田 2003] 安田伸一、地域経済研究センター
オンライン資料室、佐賀大学学術情報処理センター
広報 第3号、2003年3月